

世の中が騒然としているが、外堀通りの桜並木と櫨の新芽は変らぬ春を告げる。
2020年度の新たなスタート、新入社員の皆さん、入社、おめでとうございます。
重苦しい空気が続くが、危機は必ず終わる。会社も個人も大切なのはその先だ。
課題先進国の日本は、今回の危機をバネに、デジタル先進国へ脱皮するだろう。
不況が本格化する中、この危機の時間をどう前向きに送るかが問われている。
経営と共に、技術者一人ひとりが自らの使命と役割を自覚して努力することだ。
仕事で出会う新たな課題の解決を通じて知識を深め、実力を高めて貰いたい。

株式会社 アイヴィス

代表取締役社長 石和田 雄二

1. はじめに

{新型コロナで騒然としているが、皆さんにとっては社会人のスタートの日、アイヴィスへの入社と共に新たな未来への第一歩、おめでとうございます。}

○ 新型コロナが猛威を振るっている。

世界の感染者が72万人、死者3万5千人、
日本も、今が抑止できるか、急拡大に移るかのギリギリの境目だ。
これを押さえられるのは、国民一人ひとりの自覚と意志と行動である。
新入社員の皆さんも、日常の行動を通じ、社会人として協力して下さい。

○ 御茶ノ水駅前の外堀通り、桜並木と櫨の新芽が心和ませる。

医科歯科大構内の高台にある若い桜並木、少し遅れて咲き今が満開だ。
神田川沿いの櫨の大木も、薄っすらと新芽が広がり、青空に輝いている。
JR通勤の人は、桜並木と櫨の新芽を見て来られたと思います。
年年歳歳花相似、歳歳年年人不同、
こんな時だからこそ、変わらぬ自然の営みに触れると、心が洗われる。

○ 4月1日、今日は、皆さんが社会人としての第一歩を踏み出す日です。 入社おめでとうございます。

今年も、院卒中心に62名の若い素材に入社して貰いました。
ITサービスは、少子化の日本を支え、未来を拓く大切な産業です。
DXを通じて日本の多くの産業界に第4次産業革命への道を開きます。
困難な状況にあっても夢を大きく、仲間と共に新時代を拓いて下さい。

2. ICT サービス産業の現状とその将来性

{ヒトとモノの動きが止まる空前の危機の中、ICT の価値が見直されている。
不況を超えるのもその先の豊かな社会を築くのも、主役はITサービスだ。}

- 今回のコロナ危機でも、IT が支えるサイバー空間が見直されている。
自宅待機が広がっている時、子供向けのオンライン教育は有効だ。
滞る感染症診断のネック解消にオンライン問診も有効だ。
テレワークにはテレビ会議や在宅作業環境専門ソフトが有効だろう。

- IT が拓く未来、時代の Keyword は DX<Digital Transformation>
サイバー空間の活用で、リアルビジネスの効率化、創造性を開拓する
まさに今、この DX が各企業で始まろうとする時、
「ブラック・スワン」新型コロナが登場、リアルが崩壊寸前だ。
サイバーはリアルビジネスを支えるが、リアル無しでは成立たない。

- 実体経済はこれから今まで経験のない大不況に、段階的に突入する。
コロナ危機は、経済と産業のグローバル化が進んだ現代社会の中で、
ヒトとモノの流れを止める。
観光立国を目指した日本のインバウンドを止め、
貿易立国の優れた機械輸出や電子部品・自動車部品の輸出を止め、
トヨタなど大企業のサプライチェーンを止め、製造機能を分断した。
第二段階は、拡大する感染防止に向けて、都市や工場を封鎖する。
工場の生産が止まるだけでなく、街に人影無く消費も止まる。
東京オリパラも来年に延期、官民の巨大投資は肩透かしだ。
第三段階は、生産もなく消費も止まれば企業は倒産、失業者が急増、
財政が出動して急場を凌ごうとするが一般的にはミスマッチ、
必要な所に金は回らず、現金給付に手を出す、一時的で続かない。
感染が短期終息すればV字回復の可能性も高いが長引けば壊滅的だ。
出来れば、抑止期間を長く維持、治療薬と回復者の増大を待つ。
未知のウィルスであり、この不況は可成り厳しいと考えるのが安全だ。

- 不況は企業に平等に来るが、その先の成長に乗れるか否かが勝負所。
危機の渦中にある時も危機を抜けたその先でも、発想転換が必要だ。
出口の先では、財政も含めてデジタル投資が加速するのは確実だ。
リスクヘッジを十分考えた上で、
危機の渦中では人材投資、危機の出口では一歩先のビジネス開拓へ。

3. 当社の概要、その過去と現状、皆さんと創る未来について

{社員 550 名で平均年齢 34 歳、社歴は古いが先端技術と豊富な各種 SI 実績、DX 時代を拓くのは先端と SI の技術連携、当社の強みは時代の流れに合致。}

- アイヴィスの社歴は古いが、先端を追い続けて来た伝統と文化がある。
アイヴィスは昨年、令和元年 11 月 10 日に創立 31 周年を迎えました。
創業は平成の夜明け前、仲間 3 名と大田区蒲田の地で立上げた。
社名はアイヴィス、IVIS の音読みです。
画像処理をベースに UI と人工知能の専門開発企業を目指し、
一晩考え、英文名を Intelligent Vision and Image Systems とした。

- 会社の前半 15 年は、CAD/CAM/CAE/CG・PDM 中心に時代を拓いて来た。
設計支援システムの内部構造作りが中心で 3DCAD のシステム構築だ。
加えて自由曲面含む内部モデルを前提に、切削加工処理機能の開発や
設計品質の核となる構造解析、熱、流体解析ソフトも開発して来た。
3DCAD では日本の 2 大 High-end Solid Modeler ユニシスの CADCEUS、
NK-EXA の Design Spinnaker を開発、解析も NASA の複合材解析ソフト
を国内初導入、海事協会の船舶や JAXA の超音速機なども担当した。
この伝統は現在、T 社設計製造分野の技術開発に受け継がれている。
3D モデリング技術は、これからも設計製造分野の重要な技術である。

- IT サービス企業として SI 実装能力高く、最近では先端技術が加わる。
IT サービス企業として専門分野の開発やサービスの質向上を目指す上
でも、急速に進む IT 基盤系の最新技術進歩を取込む必要があった。
ビジネス系の SI サービスを介し基盤系技術の人材を増やして来た。
当社のビジネス系 IT サービス部門は、
設計製造、社会公共、流通小売りの 3 部門、今は会社の稼ぎ頭達だ。
近年は AI、IOT、ビッグデータ解析、ブロックチェーンなどの専門技術に加え、
クラウドなどのプラットフォームの専門知識も必要で、この専門部隊
を創ると共に、各 IT サービス部門の中に専門人材を増やしている。

- IT サービスの主流は DX、人材はいるので戦略的営業シフトを進める
DX サービスの必要条件は、先端と SI の融合技術、当社が得意な分野だ。
先端技術の Start Up は、狭い専門か高度な技術に拘るので、DX 時代に
顧客の意向を汲むことは出来ず、先端技術人材のいない下請け IT 企業
も不可能、当社は DX を柱にする積りだが、時代が場を作ってくれた。

4. 不況を脱した日本社会の課題と IT サービスの技術動向と役割

(IT サービス業界の本当の競争は景気底離れ回復期となる来年度の一年間、その為の将来構想と基盤固めが回復期の勝敗を左右、この 1 年が勝負だ。)

- コロナ危機を脱しても日本の少子高齢化や低起業率などの課題は残る
コロナ危機から抜けても以前からの課題が未解決のまま浮上して来る。元々、日本は課題先進国、世界第二の経済大国だった時代から 11 年、平均年齢も 5 歳増えて 48.36 歳になった。平和で豊かな日本はリスク回避意識が強く、活力維持の為には起業家を増やすことも重要課題だ。これを克服するには先端 IT を取込んだ IT の潜在力を活用することだ。
- 次世代 IT サービスの本流は DX、先端技術と SI で経営を刷新する機能
経験豊かな専門家に代り、データから学ぶシステムを活用するのが DX、単なる自動化ではなく、知識を持ち判断力のある新システムの登場だ。リアルタイムにデータ解析が可能な AI と IOT や SI サービスの結合形、個々の企業で形態は異なるが、第 4 次産業革命への共通な IT 基盤だ。データを IOT で収集、拡張可能なクラウドで蓄え、経験踏まえ R や AI で分析、それを SI で見える化、自動処理によって企業経営を支援する。先端技術でビッグデータによる学習と判断を可能にした所が DX の特徴だ。
- 回復時の財政出動は、将来の日本を見据えた大規模な戦略投資となる
V 字 回復が絶対必要である以上、この際、一気に膨大な予算を投ずる。70 兆円とも言われる国家予算を現状の困難な人達の救済に使うだけでなく、日本を再構築する新事業に重ねて投資するのは、当然のことだ。日本の将来の為に使うとすれば、人材投資であり、研究開発の助成措置であり、IT 基盤の再構築の支援であり、具体的には企業の DX 化支援や研究開発助成や中小企業の DX 化補助金、遠隔授業やオンライン問診、テレワークを進める為の地方自治体への政策的な IT 助成制度だろう。どちらにしても、景気回復後の先進的 IT 投資は何倍にも膨らむ筈だ。
- 危機時に守りに回ってはいはチャンスに乗遅れる、今が積極投資の時
当社は、回復時に取りに行くのではなく準備万端で機会を待つべきだ。その為の準備は、先端技術部門と IT サービス部門との連携強化であり、DX 案件の上流を担当する外部のコンサルとの情報交換、当社担当者の組織化と事例を含めた提案準備、工程の標準化や関係者間の情報共有だ。半歩先に行くことで案件が集まり仕事の場で人は育つ、今がチャンスだ。

5. 3年後、6年後の当社の目標、1000人を擁してITサービスの先頭集団へ
{不況を超え3年で経営基盤を固め、続く3年間で量から質への転換を果たす。
経営企画と技術研究所を両輪とし、3大都市圏を拠点に新たな成長を目指す。}

- 当社中期計画「IVIS IT 2025」は、**新型コロナ危機を踏まえ作り直した**。
人も会社も計画が必要で、それを達成する努力の中で成長が保証される。
今年度は、成長基盤整備の最終年だったが、
今回の新型コロナ危機による想定される影響を考え、従来計画は破棄、
前後の基盤整備3年計画の6年計画で社員1千、売上100億円を目指す。
成長基盤以前に、当社のリスク要因でもある経営体制を抜本的に固める。
第一期の前期の経営基盤整備は、社長室を設置、取締役室長の支援を得て、
社長兼会長の代表取締役が全経営責任を負って苦境を成長機会に変える。
第二期は代取会長と新任の代表取締役社長との二人三脚の共同経営期間、
代取社長配下で管理本部体制を再構築、役員本部長の定例会議定着化へ
大阪万博が開催される2025年度には、
社員本社400名名古屋200名大阪300名技術研100名を擁し、
業績的には、経営企画と技術研究所の両輪で新事業開拓を進めながら、
売上高100億円超、利益7億超に挑戦する。
これを終えて、
26年3月に、代表取締役会長は退任、新経営体制下で上場を目指す。

- **本年度からの前期3カ年計画は、組織基盤の安定化と戦略事業の準備期間**
新型コロナ危機は、短期で終わる可能性が高いが深刻な不況に陥る筈だ。
此処は、社内外の経営に関わる条件を熟知している現社長が担当するが
それが可能な環境を社長室と取締役室長、管理企画室の支援で実現する。
一方で、年度後半から3年計画の達成に集中、組織体としての経営基盤を
創りつつ、新規採用も積極対応、3年後の23年3月期には売上58億円、
利益5億8千万円、新卒採用を含めて要員超700名体制を実現する。
大阪支社の200名体制と医療健康分野を中心とした業務の安定化を図る。

- **今期は、新型コロナ危機を乗り越え、V字回復に乗った潜在能力極大化が目標**
今年度目標は、コロナ危機を考慮、雇用優先賃上げ抑止で売上47.5億円、
対前期の売上増は3億5千万円、利益は前期並みの安定増収を目指す。
上期はコロナ危機の停滞前提に、上期売上22億、利益なし
下期はV字回復で25億5千万円、利益2億円
62人の新人を迎えて上期技術教育、下期現場OJTを考えれば現実的だ。

6. 当社の将来的な成長を支える新入社員の皆さんへの期待とお願い

{今は新たな IT サービスの成長期の入口、これからが技術革新が本格化する時、知識を増やすだけでなく、課題の壁を超える工夫努力で考える力を養うこと}

- 会社の発展は皆さんの成長だが、何れ、皆さんが会社の発展を牽引する。
当社は今、特別の差別化商品や圧倒的な技術力がある訳でもないが、高専門性の博士 7 名、修士 165、学卒 330 名平均 34 歳の若手技術集団だ。それに皆さんが加わり、皆さんの成長と共に当社も成長発展する。
しかし、5 年後、10 年後は、
皆さんが主役になって会社を発展成長させる役割を担う。
新人でも、今からその気概と構想力を持って仕事と取り組んでほしい。
- 技術の成長が激しい技術革新の初期は、基礎知識と自ら考える力が大切
先端技術が実用化段階に入り、実用化への課題解決がこれからの現場 IT サービス技術者の重要なテーマ、果たすべき役割は今までとは変わる。オペレーショナルな技術者だけでは、技術変革期の IT サービス企業として成長は勿論、企業としての使命も果たせないのではないかと思う。
先端研究は今の当社に馴染まないが、
最先端の知識を身に付けながら、顧客課題に取り組み、
そこで出会う壁や谷、それを越える技術的問題を再定義して内外に学び、
問題解決に向け自ら調べ工夫し検証する若い IT サービスの技術者達が、
これからの会社の将来を拓く人材だと考える。
新人の皆さんは、今は素材だが、経験を経て人材へと育ってゆく人達だ。
- まず第一歩は、IT 技術者として基礎力をしっかりと身に付けて下さい。
 - ☆ 現実の仕事に真剣に取り組むこと。
 - ① 仕様を理解すること。不明を放置しない。
 - ② 解への論理を組み立てる。曖昧さを放置しない。
 - ③ 簡潔な表現に努め全体見える化。報告を放置しない。
 - ☆ 知識の体系化と能力の客観化の為、情報処理資格を取る。
 - ① 1 年で応用技術者資格、
 - ② 3 年で DB、5 年で PM の専門技術者資格
 - ☆ 実装の論理を考えつつ、その先の問題解決への構想力を磨く
 - ① 実装問題の背景にある問題課題を一般化して考える。
 - ② 解決方法を他の人と議論し学び、知識体系を刷新する。
 - ③ 納得するまで PDCA を繰り返す、結果と自分の成長へ繋げる。

7. おわりに

{3年間は与えられた課題に我武者羅に挑戦、幅と共に一段一段階段を上る、その間に雑学にも励み、友を増やし書に学び、自らの将来像を描くこと}

- リーダーシップと共に高度な先端技術の習得は一朝一夕には出来ません。今から将来の自分を思い描き、目標に向かって着実に努力して下さい。技術的には不明なことを放置せず、自分の頭で考えぬくこと、人に聴いて議論し、場合によっては実験し、知識として体系化する。仕事で出会う新たな課題の解決を通じて知識を深め、能力を高めて下さい。

- 2月に亡くなった、野球の野村さんの言葉を皆さんに贈りたい。
「壁にぶち当たり、出来ないことを恥と感じてがむしゃらに練習、考えに考えて工夫し、努力を重ねて一段ずつ階段を上って来た。」
そうした努力の積み上げで、最終的に野村さんは、南海で本塁打王9回と三冠王、兼任監督優勝6度、ヤクルトでは優勝4回日本一1回、「野村再生工場」とも言われた。野村監督は又、リーダーの資質についても触れている。
「深沈重厚」、これが第一の資質と述べている。
物事を深く考え、沈着冷静で人間として重みを持つことだ。
二番目は「磊落豪雄」で、気持ちを大きく持ち、細事に拘らないこと、最後が「聰明才弁」、頭が良くて才能が有り、弁舌が立つこと、これは大切な条件だが、優先順位は低いとされる。
5年後10年後、リーダーやStart Upを目指す人には、参考になると思う。

- 最後に、もう一度、新型コロナの感染防止への協力について触れる。
重苦しい空気が続くが、一人ひとりの努力の積重ねで、危機は必ず終わる。社会人一年生の皆さんには、身近な感染防止への努力をお願いします。会社にとっても個人にも本当に大切なのはその先だが、これを乗り越えなければ先が来ない。
課題先進国の日本は今回の危機をバネにデジタル先進国へ脱皮する筈だ。不況が本格化する中、危機の時間をどう前向きに送るかが問われている。経営と共に、技術者一人ひとりが自らの役割を自覚して努力することだ。仕事で出会う課題の解決を通じて知識を深め、実力を高めて貰いたい。

自分の未来を拓くのは、皆さん自身の不断の「努力と研鑽と忍耐」、一日も早くIT専門家として活躍出来る様、地道に努力を重ねて下さい。